

原告ら代理人（黒寄）

甲第25号証（陳述書）を示す

これはお兄さんがおっしゃったことを私のほうでまとめて書いた内容に間違いはないんですね。

はい。

弟さんが今回、無念に亡くなられたということでこの裁判になってるんですけども、進さんが七生福祉園に入所する前は、お兄さんは進さんとどういうかかわり合いを持ってましたか。

日曜日なんかの休みの時なんかですと外で遊んだりとか、あと家で音楽を聞いたりしてました。

進さんが入所してからは1年に何回ぐらい帰省してたんですか。

3回から4回です。

帰省されてる時はお兄さんがいつも一緒にいられたということで間違いはないですか。

はい。

それはどうしてお兄さんが一緒だったんですか。

私が休みの時じゃないとまず連れてこれないもので、それとあと弟の趣味が音楽を聞くことなんで、私の部屋にそういう聞く機械とCDや何かがありましたので、そういう感じからです。

帰ってきてる時の生活のパターンはどういうパターンだったんでしょうか。

朝食と昼食は私の部屋とか外食したりして、昼間は部屋で音楽聞いたり、テレビを見たりして、夕方になると実家が近いもので入浴と食事をしてという、そういうパターンでいってました。

それはほとんど毎日同じようなパターンということですか。

はい、そうです。

その時に進さんがどういう障害だったのか、眼球上転じゃない時にはどうい

う障害、普通の人とどういう点が違ってたということですか。

注意したことを、何回注意しても聞けないというか、ラジカセの操作についても使い方を教えるんですけども、やはり何回か、1年に2回とか3回、壊しちゃう時もありますし、あと電車の中とかに乗っていると、ちょっと目につくような格好の人を見ちゃうと直視しちゃうんですよね。それでやめろと注意するんですけど、やっぱりまたしばらくすると見てしまって、相手の人に反感を買ってトラブルになりそうなことが何回かありました。

漢字とか読み書きとか計算とか、そういうことはどうですか。

先程、母が言ったような感じですが、数字の漢字でしたら一とか二とかそのぐらいしか分からないと思います。

そういう障害があって、さらに眼球上転になった時に、眼球上転じゃない時とどういう違いがあったか、ちょっとお話しいただけますか。

目は黒目はほとんど上のほうに行っちゃうんで、頭を地面と水平近くぐらいまで持っていっちゃうんで、視界が狭いというか、下のほうしか見えないと思うんですよね。それであと動き自体というか、そういうのも全然遅くなっちゃって、歩き方もさっき母が言ったような靴を引きずりながら全然遅くなっちゃいます。

何か話しかけた時の反応というのはどうでしたか。

ほとんど応答がないという感じです。

そういうのはどれくらいの頻度で発作が起きてたんでしょうか。

1回の帰省で1回から2回ぐらいなんですけども、1回も出ない時が何回かあったことがあります。

1回の帰省で大体何日ぐらい帰ってきてるんですか。

3日から6日ぐらいです。

それは正月とかお盆とかその休みに応じての日にちということですか。

そうです。

1 回の帰省中に大体一、二回ぐらいはあったということですか。

はい。

どういう時にそういう発作が出てたんですか。

ちょっと興奮したというか、そういう感じの時になっちゃうんですけども。

時間的にはどうですか。

時間的にはやっぱり夕方ですね。

いつも自宅で入浴されてから食事をされてたんですか。

そうです。

具体的にはいつぐらいに上転になる時が多かったですか。

夕方、入浴前だと思うんですけども。

眼球上転して、それが収まってからいつも入浴してたんですか。

はい、そうです。必ずそうしてました。

それはちゃんと確認してましたか。

はい。

入浴する前か入浴した後に眼球上転になるということもありましたか。

入浴後というのはいないです。

そうすると、大体自宅では入浴前ということですか。

はい。

お風呂に入れる時にはお兄さんはどういう援助をしてましたか。

ちょっと洗い残しとかがあるんで、私は一緒に入るんですけども、その洗い残しの場所を洗ってあげたりしてました。

それは一緒に入らないとちょっと危ないんじゃないかとかいう気持ちがあったんですか。

はい。

それは具体的にはどういうことが危ないということで認識されてたんですか。

お風呂場というのはやっぱり普通の人でも滑ったとか転んだとかがあるんで、弟の場合はやっぱり障害児なもので、ちょっと何があるか分からないもので、そういう考えでずっと一緒に入っていました。

もし入浴中に眼球上転が起きたらという心配はなかったですか。

そういう発作が収まるまでは本人が入ろうとしなかったもので、それはなかったです。

入浴してる時に自分から入るという心配はなかったんですね。

はい。

ただ、もし入ってる時に眼球上転になったら、どういう危険性があったかと思えますか。

それはちょっとどういうふうになるかというのは。

普段の時よりやはり転んだりする危険性が高くなるとは思いませんか。

はい。

原告ら代理人（大石）

眼球上転ですけれども、これになる何か前兆みたいなものはありますか。

前兆というか、興奮といってもちょっと説明しづらいんですけど、例えば自分の好きな行きたいところに出かける時になると、必ずなっちゃいます。

興奮するような時になりやすいんですか。

はい、そうです。

先程、入浴前に眼球上転になったことが何回かあったということですが、入浴前というのは時間にすると何時頃なんですか。

4時から5時の間です。

被告社会福祉法人東京都社会福祉事業団代理人

進さんはお風呂に入ることを好んでましたか。

はい、それは本人の日課みたいなもので。

大体毎日入ると。

毎日とは限りませんけども。

帰ってきた時、例えば3日、4日とか1週間とかいるうちにどのくらいのペースでお風呂に入りましたか。

ほとんど毎日ですけども。

入れと言われて入るんですか。風呂に入るぞと自分でお決めになって入りましたか。

自分で入るほうですね。

眼球上転の時皆さん心配されたのは分かるんですけど、その時にあなたが見てて事故になったことはありますか。

それは私がついてる時は必ず、なっちゃった場合ですけども、を舵取るようにして持ってたので、それはないですね。

被告エイアイユーインシユアランスカンパニー代理人（花崎）

質問は特にありません。

裁判官（堀内）

眼球上転時につまずいて転んだりすることはなかったということですか。

はい。

1人で歩くということはなかったんですか。

私の一緒の時はないです。

裁判長

お風呂は必ず一緒に入ってたんですか。

私がいる時ですけども、必ず入ってました。

いない時は。

いない時は父親です。

一緒に入ってたの。

はい。

以上